

あなたもインターネットを使ってみませんか?

□ポイントとはインターネット

「インターネットの世界を知らなきや人じゃない」と言われるほど、今や明けても暮れてもインターネットな社会です。このインターネットを初めとして、世の中高度情報化社会に突入して久しいのは、新聞やニュースあるいは雑誌等で皆さん既によくご存知のことと思います。

特にインターネットに限らず、ネットワーク環境に慣れ親しみ、そこに内在するポテンシャルを十二分に活用して、研究に、仕事に活かせるかどうかは、今や研究職や事務職といった職種を超えて、好むと好まざるとに関わらず、複雑な時代を強く生き抜くための重要なキー概念となっています。

また、ネットワークの具体的な利用方法を習得することもさることながら、その利用を通じて、ネットワーク社会でのマナーを習得すること、ひいてはその奥に内在する「人と人との関係、人と物との関係」を理解できる人材を育成することは、「相互関係の複雑な時代」にあつて、大学教育の中で必須の要素となつてきています。

□インフラの整備・拡張

このような時代背景を受けて、我が広島大学には、HINETという学内

LANが一九九四年より運営されており、ネットワーク（インターネット）のインフラは毎年のように整備・拡張が進んでいます。また総合情報処理センターでは、ネットワーク環境の学習を強く意識して情報処理教育環境の整備を行い、センター新端末室（情報処理センター二階、教育学部、東千田地区）の運営を一九九六年度より開始しています。

このようにインフラの整備は着々と進んでいます。これら総合情報処理センターが提供する情報環境を使用するには、従来利用基本料と称する利用負担金（千円／一アカウント・年）を支払い責任者（指導教官等）に払っていただく必要があります。この点がネックとなつて、せっかくのインフラが広島大学の構成員、特に学部学生や研究生、事務職員に十分に活用されにくい状況がありました。

「こんなことでは広島大学は時代の流れに取り残されてしまう」と、総合情報処理センターは危機感を持ち、「時代状況に鑑み、広島大学全構成員が総合情報処理センターの標準機能を利用できるように、大学としてサポートをしてください」という働きかけを全学部に対して行って来ましたが、このたびその主旨に対して各学部から快諾をいただき、ここに「広島大学全構成員

が総合情報処理センターの標準機能を無料で利用できる」という画期的な企画が実現しました。

□インターネットにダブルクリック

難しい話は抜きにして分かりやすく言うと、「七月一日以降広島大学に正式に所属していると認められる人は、誰でもインターネットの世界を堪能できる!」のです。

「広島大学に所属していることを誇りに思える時が、今来たのです。」

当然のことながら、実際の利用に際しては、登録手続きや守つていただきたいルールがありますので、概略を以下で説明します。

七月一日(月)より本学の教職員、学生に対する総合情報処理センター利用基本料が、一会計年度当たり一ID（アカウント）分無料となります。

既に、七月一日以前に総合情報処理センターへの登録IDをお持ちの方は、一会計年度当たり一ID分の利用基本料（千円）については、課金されません。

●利用基本料の範囲内で利用できる機能及びサービスは、次のとおりです。

1. センターシステムの標準機能の利用

ユーザエントリマシソン及び教育研究用端末（情報処理センター二階、教育

学部四階、東千田地区（費用／東千田用端末）及び同端末室に設置したプリンタを利用（ホームディレクトリのファイル容量上限5MB）できます。

総合情報処理センターの二階のキャプテリア室に設置したモノクロプリンターからの出力、ファイル容量拡張、演算サーバ群の利用（カラープリンター出力を含む）はできません。

2. サービスの概要

センターの教育研究用端末、学内のHINETにつながっている端末及び自宅の端末からユーザエントリマシンによる電子メールやネットニュースのサービスやインターネットへの接続ができます。

●登録方法

1. 学部学生
総合情報処理センターで自動的に一括登録を行います。

・アカウント名（ログイン名）は、学生番号（七桁）の先頭に「u」をつけたものとします。

・初期パスワードは、学生証交付時に付与したものを使用してください。

2. 教職員、大学院生等

センターのユーザエントリマシンへの個人での登録が必要です。利用者自身がアカウント名（ログイン名）、パスワードを任意に設定できます。

登録は、センターの登録用端末及び学内のHINETにつながっている端末から行えます。

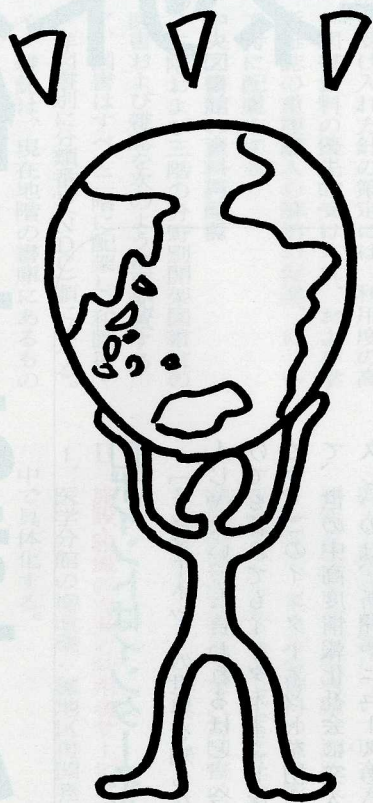
登録方法に関する資料請求及び問い合わせ先

総合情報処理センター事務局

TEL 0824-24-6252

E-mail

questions@ipc.hiroshima-u.ac.jp
(ダイヤルイン)



追悼

吉本 均先生のご逝去を悼む



名誉教授吉本均先生は、平成八年三月二十九日、七十二歳でご逝去されました。

先生は、広島文理科大学教育学科を卒業後、昭和三十一年に広島大学教育学部に着任され、昭和六十二年に退官なされるまでの間、三十有余年の永きにわたって教育学、教育方法学の研究と教育に専心され、その深奥な学識と情熱あふれる指導力をもって多くの研究者、門下生を育成され、全国の大学、教育機関に輩出されました。またこの間、附属小学校長を併任されるなど大学の運営発展にも多大の貢献をなされました。

先生は、戦後の教育学の新しい学問分野である教育方法学の学的確立と発展に尽力されました。それまでの外国の学説紹介を中心とした講壇教育学ではなく、教育実践そのもののあり方について学校現場との共同研究を大切にされた授業研究運動や日本教育方法学会の創立に、当初より中心的メンバーとして全国的に活躍されました。

先生の学問は、「歴史と論理」、「原理と実践」、先生自身のお言葉で言えば「辞書とテレコとの間」にこそ研究者としての主体性を見いだし、教育学、とりわけ教授学キーワードを確立し、提案していくことで、学界と現場をたえずリードしてこられました。

広島大学の伝統的なベスタロッチャーを中心とした教育方法思想史研究と学習集団を中心とした現場との実践的な授業研究を統一しようとした先生の研究は、『授業と集団の理論』（一九六六年）以来、二〇数冊に及ぶ著作群として出版されております。とりわけ先生の学位論文をまとめられた『学校教授学の成立』（一九八六年）や退官を記念して責任編集された『現代授業研究大事典』（一九八七年）は、代表的な仕事として高く評価されています。

退官後も先生の旺盛な著作活動は続き、毎年のように本を出版され、本年正月に倒れる直前まで、月刊の教育誌への二つの連載執筆を行い、「教授学の人間学的構想」を展開され、それらをこの春にまとめることを楽しみにしておられました。

そうした先生の学風を慕い、四月二十八日に広島国際会議場で、門下生によって「お別れする会」が開催され、全国から三百名を超える研究者、学校教師、教育関係者が集い、先生の「学究への境涯」への意思を受け継ぎ、さらに発展させていくことを誓いました。

第一線で活躍中の先生を突然に失うことは大きな悲しみです。今はただ、先生のご冥福を祈るのみです。

教育学部教育方法学研究室 恒吉宏典（つねよし・こうすけ）